弁当

夏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
弁当

【Ｎコード】
Ｎ９２７２Ｒ

【作者名】
夏

【あらすじ】
母が作った最後の弁当。
その味は今までで一番おいしかった。

ある日

俺が中学2年生の夏の日

その日俺は今日から始まる合宿のため準備に焦っていた。

「だから、昨日にうちに準備しておきなさいって言ったでしょう。もう。」

「うっせーな！」

ただでさえイライラしてるのに、これ以上イライラさせんな！

と思いながら、なんとか準備を終えて玄関へ小走りで行った。

すると、

「勇人～ちょっと待って！」

母から呼ばれた。

さっきの俺と同じように小走りで走ってっくる母親に

こっちは時間ねえんだぞ！

と苛立っていた。

やっと俺の前まで来た母の手には弁当がおさめられていた。

「これ持って行きなさい。はい。」

そう言って弁当が握られた手を出す母。

俺は焦りとはずかしさとで

「いらねーよ！そんなもん！」

そう言い捨てて出て行った。

その時一瞬だけ見えた母の顔は、

ひどく悲しそうだった。

結局その日の昼ご飯は、コンビニで買った冷たいおにぎりだった。

合宿の間、ずっと母のあの顔がはなれなかった。

いつもなら気にならないのに。

すると携帯がなった。

知らない番号だった。

出てみると、その相手は病院の人らしかった。

「母が倒れた。」

俺はすぐに合宿をぬけ病院へ急いだ。

しかし、

俺が病室のドアを開いた時にはもう・・・。

家に帰ると夕日で赤く染まった部屋の中に一つだけいつもと違うものがテーブルにあった。

それは、今日の朝、母が作ってくれた弁当だった。

涙があふれた。

その弁当は今まで食べた中で一番おいしかった。

「おいしかった。」

そう母に言ったら、母はどんな顔をするだろうか。

笑ってくれるだろうか。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9272r/

弁当

2011年10月5日21時17分発行